

昨年度に引き続き、本年4月21日に全国の小学6年生、中学3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の都道府県別結果が、文部科学省より8月27日に発表されました。

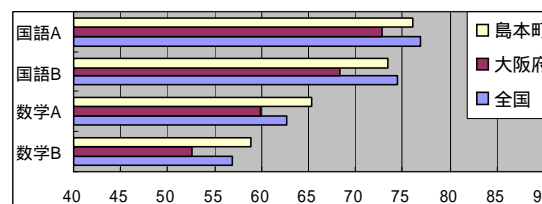
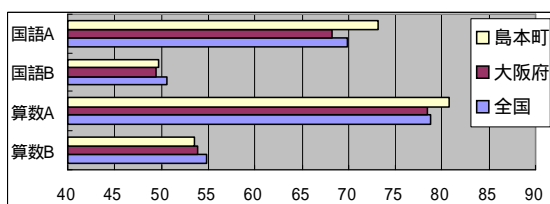
また同日、本町の結果につきましても、送付がありましたので、その概要について、お知らせします。

1. 本町の結果の概要について

平均正答率一覧（単位は100%中の正答率の値）

小学校	国語A	国語B	算数A	算数B
島本町	73.1	49.8	80.7	53.6
大阪府	68.3	49.4	78.4	53.8
全国	69.9	50.5	78.7	54.8

中学校	国語A	国語B	数学A	数学B
島本町	76.1	73.5	65.3	58.7
大阪府	72.7	68.3	59.9	52.5
全国	77.0	74.5	62.7	56.9



今回の調査も、小学校・中学校とも、国語・算数（数学）の2教科。それぞれ「知識」に関する問題（「A調査」）と「活用」に関する問題（「B調査」）で実施されました。

平均正答率の結果は上記のとおりです。小学校では、国語・算数ともに、「知識」に関する問題（A調査）は全国を2～3ポイント上回りましたが、「活用」に関する問題（B調査）では約1ポイント下回りました。また、中学校では、国語については「知識」に関する問題（A調査）・「活用」に関する問題（B調査）ともに全国を約1ポイント下回り、数学は約2ポイント上回りました。よって全体的には本町の小・中学校とも全国的な水準には達していると判断します。

なお、本町の小学6年生では国語・算数とも基礎的な学習内容は定着していますが、資料を読み取ることや、与えられた条件に沿って考えを書いたり、結論を導き出したりすることに課題があり、中学3年生では、国語で資料から必要な情報を読み取り、自分の考えを書くことに課題があると今回の結果から考えられます。

2. 『学力向上』に向けた取組みについて

…学力と子どもの意欲や態度・生活習慣とは密接に関係しています。

1) 「家庭・地域における教育力や生活環境」

適当な睡眠時間や朝ごはんの習慣等の規則正しい生活習慣が、子ども達の前向きな意欲を生み出します。

テレビ視聴、ゲーム機や携帯電話使用等の家庭内でのルールづくりで、自覚と自主性が育ちます。

学校と家庭の連携による家庭学習の習慣化は、学校から出される宿題が基本です。

2) 「学校における学習環境」

安心して学べる学校環境を学校・保護者と地域が協働で進めます。

学習規律をつけて学び合い高め合うための学級集団づくりを各学校で進めます。

3) 「学校の学力向上の取組」

よくわかり、学ぶ意欲を高める授業づくりに向けて、少人数や習熟度別など効果的な授業形態の組立てと展開で、授業改善を進めます。

漢字や計算など、反復学習の積み上げ等による基礎基本の定着を図ります。
全ての教科において国語力を育成するための活動を推進します。
読書活動や朝学習・補充学習・自主学習などのさまざまな学習の場の設定し、自ら学ぶ力をはぐくみます。

本結果につきましては、上記の内容や各データを基に昨年度の結果分析等も参考にしながら、それぞれの学校が総合的に「学力向上」策を検討・実施することで、一人ひとりの児童・生徒の学力向上を図っていきます。

なお、この調査は、対象が限られた学年（小学6年生、中学3年生）のみの実施であり、加えて、国語・算数（数学）という学力全体の一部を調べたものです。したがって、公表したデータが本町の児童生徒の学力全体を表すものではありません。